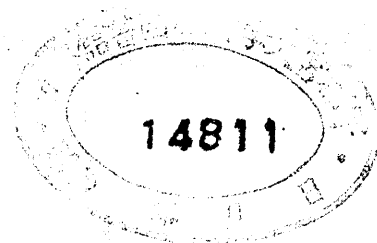


037091  
2

大川  
140

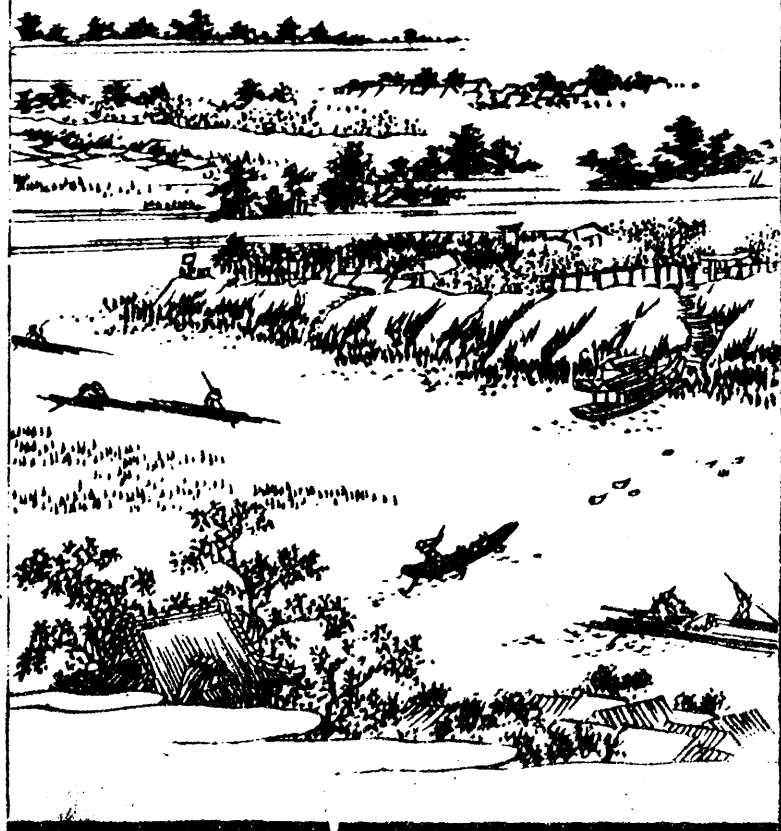
大川家  
140





14811

10

[illegible]

11841



隅田川往来  
 明日志沙庭前の  
 花み戯も流石ふ  
 永三妻は目成黄  
 昏らんやれと惜し

五節供故夏

正月七日入日の  
 静然と云ふ云  
 故事おろく人  
 万物の果ては  
 るゆきよひ日を  
 れいあふ  
 異辰と云問  
 れ俗と云  
 一日と終日と  
 二日と終日と

ゆりき其せの清  
 相結しひささる河  
 つの旧する東也  
 一日内同道可なり  
 春十八日梅老塚

月日

二



見合大船と乗船  
 順風に帆うち  
 受け勢いあけく  
 せせ端芝より河を  
 安に舟内を和

名<sup>な</sup>め<sup>め</sup>た<sup>た</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>事<sup>こと</sup>  
 と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>み<sup>み</sup>や<sup>や</sup>大<sup>だい</sup>島<sup>じま</sup>  
 閑<sup>かん</sup>燕<sup>えん</sup>菰<sup>も</sup>の<sup>の</sup>変<sup>へん</sup>あ<sup>あ</sup>ど  
 言<sup>こと</sup>傳<sup>でん</sup>人<sup>じん</sup>を<sup>を</sup>る<sup>る</sup>一<sup>いつ</sup>粒<sup>つぶ</sup>も  
 あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>  
 な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>に<sup>に</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>く



日素帳を  
 高幸氏の女  
 子七月七日死  
 刻てその奥鬼  
 神より人小  
 癩病といふ奇  
 異なる事あり  
 今より西暦を  
 元くる日あり  
 やる素帳といふ

池城見えたりま乳  
 山夕城の建て店屋  
 のと大富人の漬屋  
 色する田舎の寺  
 忠親者堂の雲

てその奥鬼を  
 つる人といふ  
 九月九日と重  
 陽の節候と  
 九月九日と重  
 のとめありて  
 九天とあがび  
 月と日の陽に  
 なるやありき

本れ出にありと所  
 山根本中堂今法珠  
 玉は虎のうらふ輝き  
 羊子枝とこれる糸成  
 本れ実の果とる地



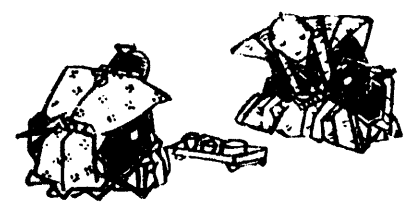
湯とひこの日  
きつたを湯  
入て香が万病  
を去ていのち  
長くとし  
總の文帝七  
りやて所位  
あるある時相  
をる人のい  
中壽十八の  
まだきあふ

に道より遠  
源より家  
氏乃家  
千煙より  
美と古代  
中

まといふ帝  
あふあふ  
新組と  
帝を  
新組の  
折てあ  
秋す帝  
とくま  
命と  
の七十歳

のな長閑い  
おり  
な  
牛乳  
田中  
福

いふ五日と世ふ  
五節供と称  
秋ふさふさ



癡気閑よ酔狂乃  
阿まりやら都鄙の  
老美男女小打更  
て芝生のまふれ鼓  
茶ふと摘みくも

八朔  
のち

八月一日と八  
朔の初日と  
ひけつあれ  
かへりかへり  
あひくむ  
大國の右天  
中横とふ由殿  
中横とふ由殿  
守とふ由

あゆく足疲惟々  
時星かき籠小夏を  
ひまじ業車塚結  
軟雨と経人の待を  
無せら終る秋の

八月一日天中  
 節赤口百舌  
 隨節減  
 其の文ふら  
 兄とのこあふ  
 中橋と渡ん  
 神とるりて天  
 ざる由ふ火の  
 妻と懐とをけ

風景威吟に石原  
 の凡ちをさるを伏ね  
 月日さるくひる壱井  
 戸天満宮に清宮書  
 乃敷真間の継橋同

八月一日  
 其の文ふら  
 兄とのこあふ  
 中橋と渡ん  
 神とるりて天  
 ざる由ふ火の  
 妻と懐とをけ

海もも木いそく小  
 いそく海ももより水  
 代島八幡文の松雲ひそ  
 のをさるまより汀  
 打出海となる海を安

くらふるや  
 けさうけ月  
 のあてよ月  
 ときくは  
 とのきよ  
 然候と氏  
 様よこ  
 くらひの法を  
 て田捕  
 刀矛細  
 とおへむと

房上様  
 分入渡り  
 水無流  
 下湯成院  
 と思ひ出  
 られ釣  
 まる

くらふるや  
 けさうけ月  
 のあてよ月  
 ときくは  
 とのきよ  
 然候と氏  
 様よこ  
 くらひの法を  
 て田捕  
 刀矛細  
 とおへむと

海士舟  
 湊も期  
 雲乃や  
 警心家  
 ひろみ

大園の文永  
紀ふけ七八年  
よりある天  
下小瀬希と  
とよりある院  
東後後院  
院のまゝ  
老外藏道方  
の早小陽彦  
あり財沙系  
まゝあるまゝ

かのこまごう  
麻子班の煙草有城  
百嶽遠を人のまゝ  
ごうたぬとち中將  
今乃方やうあやゆん  
天晴世書し能く是ふ

中さん毛進  
おの男さん  
る家ふふ  
まけるま  
あまぎや  
運とひるせ  
たまひくま  
はま如常あり  
とそ肉くは  
ささありけと  
中坊人

道屋う次中隨ふ  
おわてを本望とる  
あまぐんの後月次  
乃會定あま出席  
そなぐいん後期

隅田八景

富士暮雪

駒形帰帆

洲崎晚鐘

待望暗嵐

橋場夜雨

美屋落雁

潮入夕照

隅田川秋月

創作完賢

隅田川往來終

東都

細川並輔校合  
池田善次郎画

天保十四癸卯年仲夏吉日

芝神明前三嶋町

東都書肆

和泉屋市兵衛板

新水芙蓉年一二月  
唐詩心苑

六月十四日